第1回日本キルギス・ビジネスフォーラム

はじめに

本年２月25日（水）～26日（木）、キルギスのビシケク市において、「日本キルギス・ビジネスフォーラム」が開催された。日本・キルギスのビジネス関係者約150名が参加し、キルギスで開催された両国間のビジネス会議としては過去最大のものとなった。以下では、この日本キルギス・ビジネスフォーラムの概要をご紹介することとしたい。なお、フォーラムでのプレゼン内容を詳しくお知りになりたい方は、下記URLに報告者の資料が掲載されているので、ご利用いただきたい。

http://www.jp-ca.org/kyrgyzforum/documents.html

フォーラム開催の経緯と概要

フォーラム開催の背景としては、昨年７月山本香苗前経済産業省政務官のバキエフ大統領訪問の際、日本・キルギス間の貿易・投資振興を目的とした「日本キルギス投資環境ネットワーク」設立に関し両国政府間で合意がなされた。本ネットワークは、日本・キルギス双方に事務局を設置し、ウェブサイトを通じた情報の提供、ならびに企業間交流の活性化、新規参入企業の掘り起こし等を目的としたビジネスフォーラムなどを開催するものであるが、今回のフォーラムは、本ネットワーク設立の先駆けとして、開催される運びとなった。

フォーラムの主催は（社）ロシアNIS貿易会、キルギス経済発展貿易省であり、経済産業省、在キルギス日本国大使館、キルギス大統領付属投資会議に後援のご協力をいただいた。

日本側からは小嶋典明経済産業省通商政策局ロシア室長、飯塚裕一在キルギス臨時代理大使をはじめとする政府関係機関、商社、メーカー、金融機関などから37名、キルギス側はムカンベトフ経済貿易発展省副大臣をはじめとする政府・民間企業より115名の出席があった。現地マスコミも詰めかけ、会場であるアク・ケメホテル内ホールは開始前に満席となり、熱気に包まれた中でフォーラムが開幕した。

開会挨拶

フォーラムの冒頭、共同司会であるキルギス側ムカンベトフ経済発展貿易省副大臣は、参加者への歓迎の辞とともに、初の試みであるビジネスフォーラムの開催が「双方にとって大きなビジネスチャンスとなる」と述べた。一方、日本側司会の遠藤寿一・ロシアNIS経済研究所所長からは返礼の挨拶が述べられた。小嶋典明経済産業省通商政策局ロシア室長は、両国の外交関係樹立（1992年）までを振り返ると、キルギス日本開発人材センター等を通じた交流等相互の協力関係は深まりつつあるが、経済関係はいまだ低調であると語った。コイチュマノフ大統領付属投資会議事務局長、飯塚裕一在キルギス臨時代理大使は、キルギスの投資環境改善の例として、世銀ビジネス環境調査レポート「Doing Business 2009」によるビジネス環境のランキングを挙げ、世界181ヵ国中キルギスは68位で、2008年の99位から大幅に上昇したと述べた。アブディカイモフ大統領府経済社会政策局経済政策部長は、海外直接投資の誘致はキルギスにとって重要な課題であり、今後も投資環境の改善に努めていきたいと語った。

第１回日本キルギス・ビジネスフォーラム　プログラム

時　間	プログラム
2月25日（水）	
10:10-10:40	【司会挨拶】 ムカンベトフ　キルギス経済発展貿易省副大臣 遠藤寿一　（社）ロシアNIS貿易会ロシアNIS経済研究所長 【開会挨拶】 小嶋典明　経済産業省通商政策局ロシア室長 コイチュマノフ　大統領付属投資会議事務局長 飯塚裕一　在キルギス臨時代理大使 アブディカイモフ　大統領府経済社会政策局経済政策部長
10:40-12:00	【セッション1】「日本・キルギス間貿易・投資関係発展のための政府間の新たな試み」 ①ムカンベトフ　経済発展貿易省副大臣「キルギス経済情勢と今後の展望」 ②小嶋典明　経済産業省通商政策局ロシア室長「日本とキルギス間の貿易・投資関係発展に向けた経済産業省の取り組み」 ③コイチュマノフ　大統領付属投資会議事務局長「外国投資誘致支援・外国投資環境改善政策の現状と日本との協力の可能性」 ④丸山英朗　JICAキルギス共和国事務所長「JICAとビジネス：一村一品運動の展開と官民連携パートナーシップに向けて」
12:30-13:55	【セッション2】「キルギスにおける投資有望分野」 ①アリエフ　キルギス中小規模発電公社副総裁「エネルギー分野における外国投資誘致の展望」 ②エシナザロフ　地質・鉱物資源庁地質・投資誘致副局長「キルギス鉱業分野の現状と外資参入が期待されるプロジェクト」 ③サキエフ　投資誘致センター所長「外国投資家支援　日本投資家への情報提供」 ④芝元英一　JETROタシケント事務所長「総評、コメント」 ⑤アバキロフIT協会会長「IT分野における新規市場開拓　何故キルギスなのか」
14:45-17:15	【セッション3】「日本・キルギス間ビジネス活性化へ向けて ～キルギスにおける企業活動の現状と投資有望分野」 ①マカショフ　キルギス商工会議所副会頭「活動の現状と日本との協力拡大について」 ②サムサリエワ　キルギス銀行家同盟法律顧問「キルギスにおけるビジネスの財政的側面」 ③アサノフ　軽工業協会会長「軽工業分野の現状と日本との協力の可能性」 ④カリコワ「カリコワ＆アソシエイツ」法律事務所代表「キルギスにおけるビジネスの法的側面」 ⑤中沢賢治　EBRDビシケク事務所長「キルギスへの投資促進に向けたEBRDの活動について」
17:40-18:00	【クロージング／総括セッション】 キルギス側総括：ムカンベトフ　キルギス経済発展貿易省副大臣 日本側総括：遠藤寿一　（社）ロシアNIS貿易会ロシアNIS経済研究所長 閉会の辞／写真撮影
19:00-21:00	日本側主催レセプション（於：日本レストラン「亘」）
2月26日（木）	
10:00	アクケメ・ホテル出発
10:00-14:00	【自由経済特区視察】 視察 ●Rose（石鹸・家庭用洗剤製造）　●ハイルン（テレビ組立て）　●National Paints（塗料製造） ●Plasform　Ambalaj（プラスチック製食品容器製造）　●Magic Box Company（包装材印刷） イサベコフ自由経済特区「ビシケク」長官他との面談「自由経済特区の仕組みと役割について」
14:00-15:00	自由経済特区主催昼食会（於:レストラン「Old　Town」）
15:15-	【企業視察】 ●コカ・コーラ　●Reemtsma（タバコ製造）
19:00-22:00	在キルギス共和国日本国大使館主催夕食会　（於：レストラン「揚子江」）

セッション1：両国政府の新たな試み

開会挨拶に続くセッション１「日本・キルギス間貿易・投資関係発展のための政府間の新たな試み」では、キルギスの経済状況、投資環境改善への取組みや両国間の貿易・投資協力における課題および見通しが報告された。

ムカンベトフ経済貿易発展省副大臣は、直近の2008年度経済データを紹介し､｢キルギスは、世界金融危機に加え国内エネルギー危機を被った割には安定していた（GDP7.6％増）｣などと述べた。また、投資改革プログラムによる投資環境の改善をアピールするとともにエネルギー、鉱業、農業等の分野での協力拡大を呼びかけた。

小嶋典明経済産業省通商政策局ロシア室長は、キルギスの貿易・投資先の魅力として、「WTO加盟国である」､「政府がビジネス環境の改善を図っている」､「経済移行進展度が高い」､「日本人に対するビザ取得の優遇措置」､「鉱物資源、観光資源、農産物が豊富」､「政府によるIT分野の推進」､「地政学的重要性」を挙げ、日本人投資家誘致のためには英語標記による統計情報等の公開、優遇措置、インフラ整備、ビジネスにおける透明性が必要だと述べた。また、日本政府の新たな試みとなる｢日本キルギス投資環境整備ネットワーク｣の早期設立を提唱し、キルギス側から賛同の声があがった。

大統領付属投資会議コイチュマノフ事務局長からは、2007年設立された同会議の活動および投資環境改善の成果が報告された。

丸山英朗JICAキルギス共和国事務所長からは、内発型の地域振興策である一村一品運動の成功例の紹介とともに、現在イシククリ州で実施している一村一品運動（地元の資源を活用した石鹸、ドライフルーツ等）の活動が報告された。

セッション2：投資有望分野

続くセッション２「キルギスにおける投資有望分野」では､キルギス側よりエネルギー、鉱物資源、IT、軽工業の４分野が選定され、プレゼンテーションが行われた。

エネルギー分野　キルギス中小規模発電公社アリエフ副総裁によると、キルギスは中央アジア全土に電力を提供できるほど豊かな水資源を有し、水力発電のポテンシャルは年間2,000億kWhと言われているが、現在の発電量はその７～８％程度（140～150億kWh）にとどまっているという。発電量が増加すれば、現在大幅な電力不足に見舞われているカザフスタン南部、タジキスタン、中国東部等への輸出が可能となり、周辺国の経済発展にも貢献できると、投資先としての魅力を強くアピールした。

鉱物資源分野　鉱物資源分野は、GDPの５～10％を占める最も有望な投資先と見られている。エシナザロフ地質･鉱物資源庁地質･投資誘致副局長によると、国内には主力のクムトール金鉱の他にも未開発な鉱床が多く存在し、外資導入が期待できるプロジェクトとして、①レアメタル鉱床クテサイ２（鉱石埋蔵量約2,022万ｔ）の開発、②カッサン・アンチモン鉱床（鉱石埋蔵量約112万ｔ）の開発、③バラ・チチカン・チタン磁鉄鉱鉱床（鉱石埋蔵量約32億ｔ）の地質調査、④テレク・サイ金鉱床（金埋蔵量31.5ｔ）開発、⑤カラ･ケチュ炭田（埋蔵量約9,000万ｔ）の開発、⑥ハイダルカン水銀コンビナート民営化プロジェクト、の６つを挙げ、日本側へこれらの開発、調査、投資協力などを求めた。

IT分野　新しい投資有望分野として政府が

特に力をいれているのがIT産業である。アバキロフIT協会会長によると、ITテクノパーク設立を予定しており、地理的要因を考えても「キルギスをCIS市場戦略の拠点と見なすべきだ」と呼びかけた。同氏はソフトウェア開発会社「ユニークテクノロジー」を経営しており、現在10社の日本企業と提携し、年間約30のプロジェクトを抱えているという。

軽工業　336企業で構成されているキルギス軽工業協会は、主に企業家の権利擁護および国内外市場への販売促進に関するサポートを行っている。アサノフ同協会会長によると、縫製業、繊維産業はキルギスにおいて有望な産業分野のひとつであり、雇用拡大、新たな市場開拓のため、キルギスに世界標準のテクノパークを設立すべく準備を進めていると語った。

また、サキエフ投資誘致センター所長は、両国間ビジネスに関して「キルギスは非産油国ゆえに大型投資家の誘致は難しい。１件30～50万ドル程度のスモールプロジェクトを今後進めていくべきだ」と述べ、まずはウェブサイトを通じた両国間情報連絡ブリッジを確立する準備を進めているとの報告があった。

芝元英一ジェトロタシケント事務所長は、中央アジアが持つ可能性として鉱物資源、物流拠点の２点を挙げた。ロシア、中国、インド市場から等距離にあるこの地域は、貨物の中継地点として重要な役割を果たす可能性を秘めているが、実現するか否かは中央アジア諸国間で、通関面での共通化を図るなどの協力が不可欠であると述べた。

セッション３：両国間ビジネス活性化へ向けて

セッション３「キルギスにおける企業活動の現状」では、商工会議所、銀行協会、法律事務所、EBRDよりビジネス活性化に向けた取組みが紹介された。

企業協会商工会議所マカショフ副会頭は、対外経済活動として、展示会・見本市事業に力を入れており、キルギスは小国であるゆえに「一つ一つの国際展示会が、確実な経済発展の歩みとなっている」と語った。2005年名古屋で開催されたエクスポに出展以降、キルギスを訪れる日本人企業家は増加しており、エネルギー、鉱業、加工産業、観光分野において日本の技術､投資を誘致したいと述べた。

銀行家同盟サムサリエワ法律顧問からは、キルギスの銀行制度における説明があった。現在キルギスには国立銀行と21の商業銀行があり、2008年度総資産額は前年比30.4増の549億5,000万ソムに上ったという。

カリコワ＆アソシエイツ法律事務所カリコワ代表からは、投資の保証制度や特典に関する説明があり、投資家はキルギスでの利益を自由に本国送金できること、また再投資要求のないこと等を挙げ「キルギスでは、法律自体が投資を奨励している」と自信を覗かせた。

中沢賢治EBRDビシケク事務所長は、キルギスにおけるEBRDの活動の紹介とともに、キルギス企業が市場経済のニーズに対応するための各種支援プログラムを紹介した。

質疑応答では、キルギス側より投資基金設立の提案や、1999年の邦人誘拐事件以来滞っていた地質調査への参加協力要請などが寄せられた。

レセプション

25日夕刻には、ビシケク市内日本食レストラン「亘（わたり）」にて日本側主催のレセプションが開催された。席上では、本日のフォーラムが成功に終わったことへの感謝の辞が述べられ、続く第２回日本キルギス・ビジネスフォーラムを日本で開催したいなどとの声もあがった。日本人夫妻が経営する本レストランでのレセ

プションは、日本・キルギスの交流の場として終始和やかに進んだ。

・視察プログラム

２月26日はキルギス経済発展省企画のもと、午前中にビシケク自由経済特区視察、午後にビシケク市内企業視察プログラムが組まれた。

ビシケク自由経済特区視察　フォーラム参加者一行は、市内から18km、車で40分ほどのビシケク経済特区（在アクチイ村）を訪問した。特区面積は153ha、フェンスで囲まれた敷地内は綺麗に整備されており、インフラも完備、予想以上に立派な佇まいであった。現在3,500人が働いており（その出身国は25ヵ国に及ぶ）、64の工場が稼働中。同特区は1995年11月に開設され、内閣の管理下に置かれてる。

今回特区の推薦により、石鹸・洗剤製造「Rose」（イラン）、テレビ組立て「ハイルン」（中国）、塗料製造「National Paints」（アラブ首長国連邦）、ペットボトル製造「Plasform」（トルコ）、包装材印刷「Magic Box」（トルコ）の５企業を訪問した。

各企業とも、製品をロシア、中国、近隣国（カザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、アフガニスタン）などへ輸出している。また、輸出用のほかキルギス国内向け製品も製造されており、例えば洗剤メーカー「Rose」の粉末洗剤Idealはローカルブランドとして地元で人気を誇っている。

イサベコフ特区長との面談　企業視察の後には、ビシケク自由経済特区長官イサベコフ氏（2007年首相）による特区の仕組みおよび役割についての説明があった。概要は以下の通り。

- 特区内では、酒、たばこを除くあらゆる分野の製品が製造可能である。
- 特区内で製造された製品は、70％以上の輸出が義務付けられている。
- 優遇措置として関税の免除（特区内へ搬入される場合など）、資産税・土地税の免除などがある。
- 電気、水道、ガス、警備などのユーティリティを完備している。
- 進出希望企業用のスペースはまだ若干残っているが、契約後３ヵ月以内に着工しない場合所有権利を失う。
- 登記手続きは区内において１日以内に済ませることができる。
- 国内にはビシケク経済特区の他、カラコル市、ナリン州、イシククリ州、タラス州などにも経済特区を有するが、特区法の条件を満たしているのはビシケク特区のみ。

また、同日午後の企業視察では、キルギスに進出した外資系企業コカ・コーラ、タバコ工場Reemtsma（ドイツ）の視察、夕刻には在キルギス日本大使館主催の夕食会が催された。

おわりに

今回のフォーラムは、キルギスで開催する初めての両国間ビジネス会議ということもあり、キルギス側の関心は高く、現地メディアにも多数取り上げられた。

フォーラム終了後に実施したアンケート調査（日本側向け）によると、「日本キルギス・ビジネスフォーラムに参加して総体的に如何だったか」という問いに「非常に満足」「比較的満足」という回答が９割を超え、中には本年キルギスで具体的なビジネス展開を計画しているという声も寄せられた。また、キルギスに対する印象としては、「非常に親しみやすい」「政府・企業関係者ともにポジティブな印象を受けた」など好印象の反面、「汚職が蔓延している」「インフラ整備がなされていない」等のご意見もあった。

日本とキルギスのビジネス規模はまだ小さ

く、日本企業誘致にはキルギス側の努力が必要だと感じるが、今回のフォーラムにおいて、ビジネスチャンスを求め互いに歩み寄る姿が垣間見られた。

日本側参加者の皆様には、冬場の開催にもかかわらず、東京、モスクワ、タシケント、アルマトイ、ロンドン、ドバイなどより、早朝フライトや陸路にて会場へお越しいただいた。フォーラムへご参加の皆様ならびに開催にあたり多方面でご協力をいただいた方々へ改めて深く感謝申し上げたい。

（構成：片岡 久美子）

本稿は『ロシアNIS調査月報』2009年6月号にも掲載されています。